

第1章 積丹町の概要

西山悟史

積丹は明治から昭和初期にかけてニシンの大漁場として発達し、当時の番屋、トンネル、旧街道などが保存されている。積丹半島はニセコ積丹小樽国定公園に含まれており、積丹の海は北海道で唯一海中公園に指定されている。積丹町の海岸は約 42kmあり、切り立った断崖や奇岩が多数ある。また、シャコタンブルーといわれる「神威岬」の景観が大変有名である。なお、積丹半島と神威岬は 2004 年（平成 16 年）に北海道遺産として認定されている。

1.1 位置と地勢

積丹町は後志支庁の北部に位置し、東経 140 度 35 分 53.6 秒、北緯 43 度 17 分 54.9 秒で、北海道西海岸の中央部、北西に突出している積丹半島の東部に位置し、日本海に面している。総面積は 238.17 km²で、隣接している自治体には神恵内村と古平町がある。

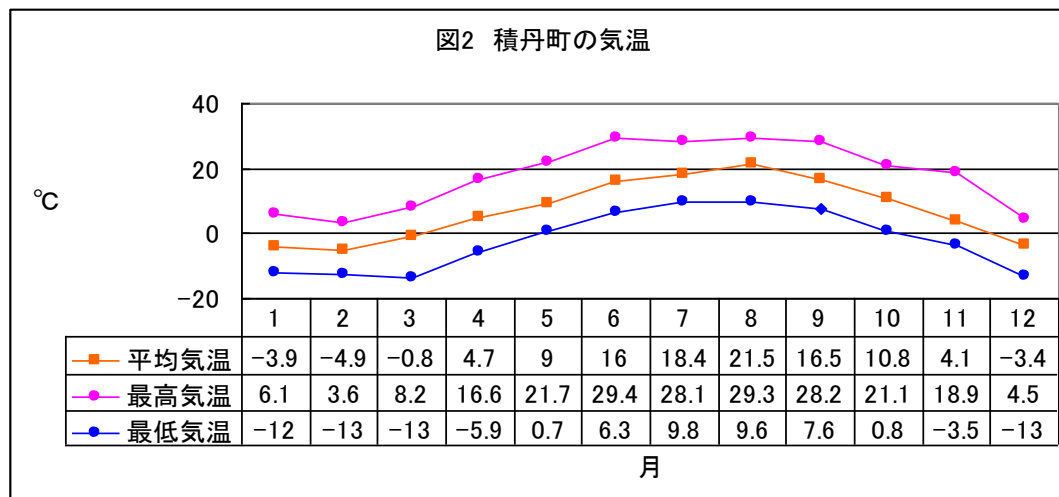
図 1 積丹町周辺の地図



出典：積丹観光 Web site

1.2 気候

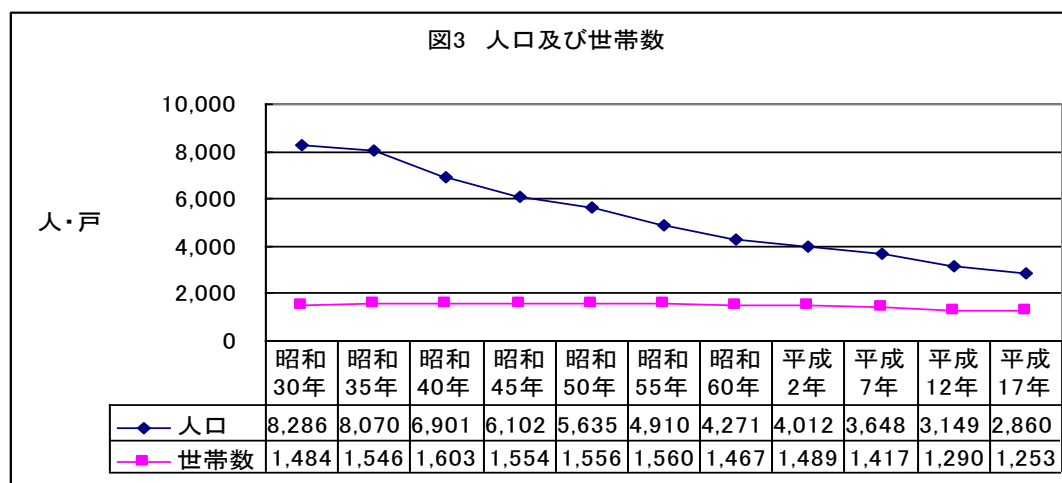
気候は、裏日本型気候に属し、一般的に春から夏にかけては温暖で晴天の日が多く、冬は北西の季節風を受け、しかし、複雑な地勢のため、地域によって気候は大きく異なり、北後志は比較的温暖で積雪量も少なめだが、積丹半島以南の沿岸では、季節風を正面から受けて風雪が強く、海は波浪が激しくなっている。



出典：気象庁 HP

1.3 人口及び世帯数

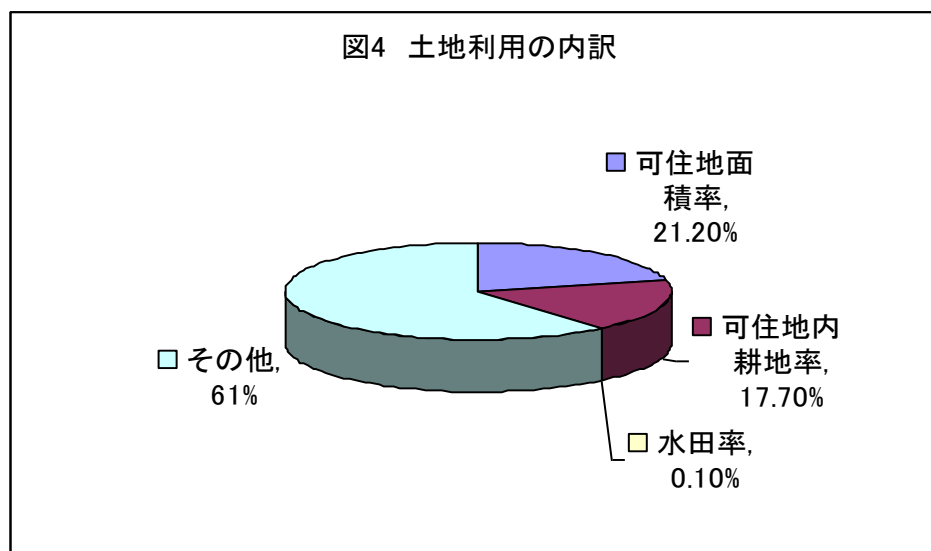
積丹町が発足した昭和 30 年代には、人口 8000 人を超えて、町は活気があったが、平成 17 年現在の人口は 2860 人となっており、他の市町村と同様に、高齢化と過疎化が進んでいる。しかし、世帯数だけを見ると、あまり変化しておらず、一世帯当たりの人数が激減していることがわかる。



出典：統計局 HP

1.4 土地利用

積丹町の総土地面積は 23,817ha であり、その内訳は可住地面積は 5,058ha、耕地面積は 895ha、林野面積は 18,759ha である。



出典：わがマチ・わがムラー市町村の姿－HP

1.5 積丹町の歴史

1.5.1 地名とアイヌ

日本海岸の積丹のアイヌ語の原名はサクコタン（夏の海辺の集落、神恵内と泊の間にある祈石はイヌン・ウシ（漁のため滞在するところ）からきている。積丹の沼前はノナ・マイ（ムラサキウニの多いところ）、増毛の歩古丹^{あゆみこたん}はアイビ・カル・ウシ・コタン（アワビをいつもここでとる部落）が簡略化されたものである。秋になれば群れをなして河を溯る鮭はアイヌにとって貴重な食料であり、生活用具の材料にもなり彼等はこれをカムイチエップと崇めた。北海道西海岸のアイヌは鯊を「神魚（カムイチエップ）」とした。日本海沿岸には稲穂岬あるいはイナウ岩という地名がある。鯊の多かった日本海沿岸では、春になると酒を醸し、海岸に祭壇を設け、「木幣^{もくへい}（イナウ）」をたて鯊を迎える春祭りをした。彼等の使った漁の道具は「たも網」で、網地は「イラクサ」等で編んだ三角網で掬ったようである。

1.5.2 江戸時代～明治時代の積丹

町の歴史は古く、慶長年間(1596～1625)に美国場所と積丹場所(後の入舸^{いりか}・余別村)が設けられ、知行主は美国が近藤家、積丹は藤倉家が世襲していた。1706年（宝永3年）には既

に集落が作られていたことがわかっている。しかし、当時の資料がないため、各集落にどんな人が住んでいたかは明確ではない。毎年 3 月のニシン漁期になると、男子が一時的に集団出稼ぎをして漁労に従事した。当時は、松前藩の制度として和人が神威岬以北の地において越年することは許可されていなかったもので、夏や秋の季節に至ると本州に帰っていた。天明年間(1781～1789)には運上屋、ニシン小屋、番屋などが美国で 29 軒、積丹で 17 軒も数えたという。1822 年（文政 5 年）当時、アイヌは 82 人住んでおり、漁獵生活を営んでいることがわかっている。1860 年代に入ってから、アイヌと和人が漁労のため一時的に集団出稼ぎをなし、雑居して集落を作っていた。慶応 3 年から明治 7 年、9 年と年を経るにしたがって急速に移民が増加し、仲通りを中心として市街が発達し、学校や役場などの公共施設が設置され、村としての形が整えられた。

1.5.3 移民に関する話

1855（安政 2）年箱館（現在の函館）開港の翌年、幕府が蝦夷地を再度直轄にした。南下を図るロシアへの対抗策に迫られた幕府は、蝦夷の和人化、つまり内国化を進めた。そのため自藩の実情を幕府に知られてはまずいと、積丹から奥地での和人越冬を禁止していた従来の松前藩の政策を変更した。幕府から奥地への移民永住許可が出たことで、道南に限定されていた和人はニシンを追って日本海岸を北上した。明治時代になり、全国各地から開拓移民が入ってくるとそれぞれのふるさとの民謡や流行歌など、さまざまな要素が混じり合っ、て、多くの唄を成立させた。それらのなかでは、漁場の労働者、山子、土工、炭鉦夫、女工などによってうたわれた労働歌が少なくない。

1.5.4 昭和以降の積丹

積丹町は、昭和 28 年 9 月、町村合併促進法の公布に伴い、合併の検討に努めた。その結果、北海道町村合併促進審議会は、昭和 29 年 8 月知事に対し、美国町、入舸村、余別村の 3 町村の合併を適当とする旨の答申を行った。しかし、地域住民の意向を総合すると、美国町の住民は該案を支持したが、入舸村及び余別村住民は、地勢交通産業化の増強及び財政力の浸透力を考慮していない合併策定として、美国町を含める 3 町村合併に反対の意向を表明し、むしろ、産業経済状態などを同じくする入舸村と美国町の合併を希望し、この 2 村合併計画を樹立し協議を進めたが、役場庁舎所在地の問題で歩み寄りせず決裂し、昭和 31 年 8 月北海道合併促進審議会の答申案である美国町を含めた 3 町村合併を推進してきたところ、偶然にも余別村の一部において、地域住民の福祉を増進するには、より合併の規模を拡大し、産業経済の一大興隆を図るべきであるとの見地から古平町を含め、4 町村合併の意見を提出した。なお余別村の過半数と入舸村の一部は美国町との合併に反対していたが、法の適用期間中に合併をすることが住民の福利増進の途であることを理解し、北海道知事策定に係る合併計画に賛同を決意した。

新町名を「積丹町」と称することにした理由は、全国的に知られている観光積丹の「積丹」の名称を希望する人々が最も多かったからである。そして、3町村協議会において協議の結果最適と認められ選定された。

新町役場の位置は、北海道美国郡美国町大字^{ふなま}船瀬村 48 番地に決定した。その理由は、新町の役場位置は、3町村合併後の中心市街地としての要素を有していて冬期間においても定期航路の終起点地であり、交通の便もよく、他官公庁への連絡交通上及び財政上の観点より最も適当であると認められたからである。住民には不便のないように、旧関係村への支所を設置することとした。

1.6 積丹半島の道路と交通

一般国道 229 号は、小樽市を起点として余市町から日本海沿いに積丹半島の外周を経て道南の江差町に至る路線で、かつては陸の孤島と呼ばれた沿岸地域も、豊かな水産資源や風光明媚な自然景観に恵まれた北海道の代表的な観光ルートのひとつとなっている。しかし、この路線は、全国的にも珍しくトンネルが多い。また、海岸沿いでカーブや急崖斜面が多く、また狭小トンネルもいくつか残っているので、これらを解消し、安全で確実な交通の確保を目的としたトンネル工事や各種防災対策工事が実施されている。そして、観光振興のために少なくとも余市までの高規格道路の整備や、余市から先の国道 229 号の安全

図 5 積丹半島の道路



出典：北海道開発局小樽開発建設部小樽道路事務所 HP

確保、やはりここでも、狭小トンネルの解消という課題がある。そうした整備が進んで、はじめて積丹までの観光ルートが安定する。積丹観光を支えるのも、結局は道路ということになるのである。なお、積丹町、古平町に鉄道は走っていない。

参照 HP

しりべし i ネット HP : <http://www.shiribeshi-i.net/>

わがマチ・わがムラー市町村の姿－HP :

<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-01/405/index.html>

北海道積丹観光 Web site HP : <http://www.kanko-shakotan.jp/>

北海道口コミポータルサイト BEST! from 北海道 HP :

<http://www.bfh.jp/area/city.html/29>

後志支庁 HP : <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/>

統計局 HP : <http://www.stat.go.jp/index.htm>

農林水産省北海道農政事務所 小樽統計・情報センターHP

<http://www.hokkaido.info.maff.go.jp/center/otaru/index.html>

気象庁 HP : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

余市宇宙記念館 HP : <http://www.spacedome.co.jp/>

北海道開発局小樽開発建設部小樽道路事務所 HP :

<http://www.ot.hkd.mlit.go.jp/roadoffice/otaru/>

小樽商工会議所 HP : <http://www.otarucci.jp/>